



2025 年 7 月 30 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ス ト レ ー ジ 王
代 表 者 名 代表取締役 荒川 滋郎
社長執行役員
(コード番号：2997 東証グロース)
問 合 せ 先 執行役員 松田 次郎
管理部長
TEL. 047-314-1981

「再利用による未来への一步」- コンテナ再活用による CO₂削減と持続可能な物流の推進

～ストレージ王の SDGs アクション：再利用コンテナで CO₂削減～

トランクルームに関する企画、開発、運営、管理業を行う株式会社ストレージ王(本社：千葉県市川市、代表取締役：荒川 滋郎、証券コード：2997、以下「ストレージ王」)が環境負荷の低減と資源循環の促進を目的に、東京都足立区の「谷在家トランクルーム」で使用していた 20 フィートコンテナ 16 本を、塗装・整備し静岡県袋井市の「袋井湊トランクルーム」(静岡県袋井市湊字三升574-2)にて再利用する取り組みを実施しました。

通常は海外で新造されたコンテナを輸入し、トランクルームとして設置しておりますが、今回は国内で使用していたコンテナを再利用することで、製造・輸送に伴う CO₂排出を大幅に削減し、サステナブルな資源活用のモデル構築を目指しました。



■ CO₂排出量評価（Scope 1～4）

本取り組みは、国土交通省の「陸上交通評価値算定調査」および経済産業省の「サプライチェーン排出量算定ガイドライン」に基づき、以下のように評価されます。

スコープ	内容	排出量 (kg CO ₂)
Scope 1	国内トラック輸送（東京→袋井 約 197km）	49.3
Scope 2	塗装作業に伴う電力使用（5kWh/本 × 0.4kg/kWh）	32.00
Scope 3	新品コンテナ製造を回避 （2,200kg/本 × 1.8kg CO ₂ /kg）	63,360.00（削減）
Scope 4	※海上輸送（中国→日本 約 1,800km）を回避	1,056.00（削減）

※Scope 4における海上輸送回避によるCO₂排出量（66kg/本）は、中国（上海港）から東京港までの約1,800kmの航路距離を想定し、Clean Cargo Working Group等のガイドラインに基づき、平均的なコンテナ船の排出係数 15g CO₂/TEU・km を採用した試算結果です。

1TEUあたりの平均積載効率を100%と仮定しています。

■ 総合評価と環境効果

- ・ 再利用による排出量（Scope1+2）：81.30 kg
- ・ 新品製造、輸送を回避したCO₂排出量（Scope3+4）：64,416.00 kg
- ・ CO₂純削減量（Net Savings）：64,334.70 kg CO₂

この削減量は、乗用車約 17 台が 1 年間に排出する CO₂量※に相当します。

※ 一般的に乗用車 1 台あたり年間約 3.8 トンの CO₂排出とされるため、64.3 トン ÷ 3.8 トン = 17 台

■ 社会的・環境的意義

- ✓ 資源循環の促進：鉄鋼廃棄物の削減と再資源化
- ✓ サプライチェーンの最適化：Scope3 の排出削減により、ESG 評価の向上
- ✓ 地域貢献：地元塗装業者との連携による地域経済活性化
- ✓ 持続可能な物流モデルの構築：再利用による輸送効率の改善と環境負荷の低減

■店舗概要

名称	ストレージ王 袋井湊トランクルーム
住所	静岡県袋井市湊字三升574-2
オープン日	2025年6月24日
アクセス	JR 御厨駅から車で約15分 国道150号線沿いの「湊東交差点」近く

・ストレージ王 袋井湊トランクルーム

<https://www.storageoh.jp/search/detail/2219>





・ストレージ王 谷在家トランクルーム 移設前





■ 今後の展望

ストレージ王では、今後も全国のトランクルーム拠点において、コンテナの再利用・再配置を積極的に推進し、環境負荷の低減と地域社会への貢献を目指してまいります。特に Scope3 の排出量削減を中心としたサプライチェーン全体の最適化を図ることで、CSR（企業の社会的責任）および ESG 経営の実践、さらには SDGs の達成にも寄与する持続可能な事業運営の強化に取り組んでまいります。

■ 備考

※ 本リリースに記載された CO₂排出量の算定は、国土交通省および経済産業省のガイドラインに基づき、社内で独自に算出したものであり、第三者による検証は行っておりません。

以上